

# かお・人・interview

2018年7月28日

新所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局  
山国川河川事務所 所長

## 鹿毛英樹氏

九州の一級河川の中でも山国川は急流河川だ。頻繁に洪水や濁水に悩まされている。それ以外にも河川内が名勝指定の一面を持つ。川の流れが、歴史・文化・景観をつなぐ役目を担っているのだ。観光振興の魅力向上と河川の維持保全など、このふたつを、どうまとめあげて行くのか。新任の鹿毛所長にお話を伺う。

### Q 所長就任にあたっての抱負

河川管理者として一番に考えるのは防災です。着任早々の4月11日に発生した、耶馬溪の土砂災害も事務所がひとつとなって、行方不明者の捜索活動を支援しました。自然災害が起こった時は関係者が連携し被害を最小化することが、今後も大きな課題です。当事務所は河川の管理に加えて、耶馬溪ダム、平成大堰の管理もあり、洪水・濁水時ともに重要な役割を担っています。防災は職員一丸となって対応する必要があります。九州地方整備局で一昨年の熊本地震、昨年の九州北部豪雨を経験し、直轄の管理区間だけでなく、近隣の市長村災害についても可能な範囲で支援すべきと再確認しました。

また、治水対策以外に、地域活性化につながる川づくりも重要です。山国川流域は国定公園や名勝に指定されており、平成29年には日本遺産に認定を受けました。管理する河川の周辺には、景勝地の耶馬溪、耶馬溪鉄道跡地のサイクリングロード、黒田官兵衛の中津城などがあり、耶馬溪ダムも利活用が進んでいます。

これらの観光名所を山国川の流れで連結して、地域活性化の後押しをしたいと思います。とくにサイクリングロードは勾配も穏やかで眺めも抜群ですので、多くの景勝地を楽しめます。環境の維持管理と同じように、耶馬溪ダムの観光振興も住民の方々と連携していきたいと考えます。



▲耶馬溪の土砂災害支援状況  
(写真提供：山国川河川事務所)



(写真提供：山国川河川事務所)

河川整備や維持管理だけではなく、災害時の復旧作業も建設業界の方々がいなければできないこと。意見交換を活発にして、関係を強めたい。

### Q 九州地区や福岡県との関わりについて

出身は福岡県久留米市田主丸です。筑後川から300mくらいの場所に実家があり、中学までよく筑後川で泳いでいました。

佐賀国道事務所で採用され、九州地方整備局以外では北九州国道事務所の八幡維持出張所、竜門ダム、大隅河川国道事務所など、道路、ダム、砂防も経験し、九州は、長崎県を除いて赴任しています。

大分県内の勤務は2回目です。平成16年から3年間は大分河川国道事務所、地域連携課長として大野川を担当しました。現在その部署はありませんが、そこで、地域連携の重要性と難しさを実感し、川を活かしたまちづくり、地域の活性化につながる川づくりができないかを考えるようになりました。

### Q 当事務所の紹介(事業内容、組織、特徴)

山国川流域は山国町英彦山(標高1200m)に発し、38の支川を合わせ、中津川を分派して周防灘にそそぐ幹川流路延長56kmの河川です。流域は中津市をはじめとする3市3町からなり、流域の約8割が耶馬日田英彦山国指定を受け、川沿い(6k240より上流)は、名勝「耶馬溪」に指定されています。

とくに、中・上流域は溪谷や奇岩が数多く存在し、それらは名勝「耶馬溪」に指定されており、なかでも青の洞門(競秀峰)は全国的にも有名で、毎年多くの

観光客が訪れます。

下流域には黒田官兵衛ゆかりの中津城、福澤諭吉旧居、寺町などの歴史が数多く存在し、これらの歴史、文化、景観をつなぐ軸となっているのが山国川です。

山国川の河床勾配は上中流部で1/200。下流部でも1/500~1/1000。九州の一級河川の中でも急流河川です。このため、洪水も起こりやすい環境ですが、降った雨がすぐに流下するので、渇水の頻度が多いのも特徴です。

### 近年の大規模洪水 平成24年7月3日九州北部豪雨

山国川(国管理区間)において、平成29年7月洪水の家屋浸水被害は床下浸水2戸。平成24年7月洪水と比較して浸水被害が大きく減少。

国管理区間の被害状況	H24.7.3	H24.7.14	H29.7.5	
浸水区域面積	58.1	50.1	1.8	
家屋被害	床上浸水(戸)	132	125	0
	床下浸水(戸)	62	63	2
	計	194	188	2

### Q 平成30年の事業概要について

平成30年6月末に、床上浸水対策特別緊急事業が完了しました。先日の梅雨前線暴雨の際には大いに効果を発揮しています。治水の安全度は格段に向上しましたが、昨年の九州北部豪雨では、山を隔てた朝倉市で観測史上最大の雨も降っているため、今後も注意が必要だと認識しています。

下流部(中津市街部)の流下能力向上のため、堤防整備事業を実施したいと考えています。当面は福岡県側の唐原地区において引堤事業を進捗させ、平成30年度

は用地買収および埋蔵文化財調査を実施予定です。

山国川は、河川内が名勝に指定されており、工事をするにしても文化庁協議が必要になります。河床の奇岩や石橋など文化的価値が高いものも多く、どのように改修していくかは今後の課題です。上流~下流までの景観、歴史、文化をつなぐサイクリングロードの整備や防災拠点の維持など「川を活かしたまちづくり」を検討していかなければなりません。



▲魔林峡 (写真提供: 山国川河川事務所)

## Q 地域との連携・協働について

山国川では 3 つの団体の方々が河川協力団体として認定されています。ひとつは NPO 法人耶馬溪の自然と景観を守る会(平成 27 年河川協力団体認定)です。耶馬溪ダムが主な活動の拠点です。景観保全活動や水源地域と利水受益地域との、交流促進活動や耶馬溪の観光に訪れる方々に四季を通じて楽しんでいただけるよう、ダムの景観美化活動などを実施されています。

ふたつめは、レスキューサポート九州(平成 27 年河川協力団体認定)です。主に防災教育活動に力を入れています。福祉施設や高齢者の方、幼児、小学生など、幅広い層を対象に防災研修や避難訓練、清掃活動、環境学習などを実施されています。

最後は、NPO 法人水辺に遊ぶ会(平成 29 年河川協力団体認定)です。山国川の河口部中津干潟をフィールドに、生き物観察会や干潟でのイベント、松林再生活動、清掃活動、環境学習などで力を発揮しています。

3 団体の活動は、景観の保全活動や防災教育の普及、環境保全活動につながっています。今後はさらに連携を深め、協働したまちづくりを展開していければいいと思います。また、3 団体以外にも流域で活躍されている方々がいれば、力を合わせて流域連



▲H29 年山国川クリーンナップ作戦に参加いただいたボランティアの方々 (写真提供: 山国川河川事務所)

携会議のようなシステムを作っていきたいと思っています。

## Q 地域建設業への要望・メッセージ

赴任して 11 日目に、耶馬溪の土砂災害が発生し、当事務所も 24 時間体制で行方不明者が発見されるまでの 12 日間支援しました。同じ様に、災害協定を締結している建設業者の方々も昼夜に渡り捜索活動を実施していただき、大変感謝しています。

先日の耶馬溪の土砂災害もそうですが、実際に捜索活動に従事したのは建設業界の方々です。河川整備や維持管理だけでなく、災害時の復旧活動も建設業界の方々がいなければできないことだと実感しています。

今後もしろいろと意見交換しながら、よりよい関係を継続したいと思っています。



## Q 趣味、健康法について

単身赴任も通算 9 年目になりますが、どこに転勤しても運動不足にならないよう気を付けています。とくに、中津は自宅に近いこともあり、週末戻ったときには趣味のテニスを楽しんでいます。

ほかに、時間があれば宿舎の周りを歩くよう心掛けています。観光名所が豊富なのは知っていましたが、4 月に赴任したときの桜の美しさや眺めのすばらしさに感嘆の声が出ました。散策の楽しさを覚えたところです。

### プロフィール



出身地: 福岡県久留米市田主丸町  
生年月日: 昭和 36 年 12 月 18 日 (56 歳)

職歴: H16.4.~九州地方整備局  
大分河川国道事務所 地域連携課長  
H19.4.~九州地方整備局 河川部  
地域河川課 建設専門官  
H22.4.~九州地方整備局 企画部  
技術管理課 課長補佐

H24.4.~九州地方整備局 延岡河川国道事務所 技術副所長  
H25.4.~国土交通省総合政策局 公共事業企画調整課 課長補佐  
H27.4.~九州地方整備局 河川部 地域河川課長  
H29.4.~九州地方整備局 河川部 地域河川調整官